

こどもり
小泊地区広域漁港整備事業(臨港道路整備)

受賞機関 青森県西地方農林水産事務所
西北地方漁港漁場整備事務所

はじめに

青森県小泊村は、津軽半島の北西端に位置し、日本海で育まれたイカ、メバル、ベニズワイガニ、アワビなどの豊富な魚介類に恵まれている。また、当村は津軽国定公園内にあり、変化に富んだ海岸線の美しさを生かした観光地として近年注目されている。

本事業は、このような小泊村の地域特性を生かし、漁獲物流通の向上を図るほか、「漁港」と「観光」を結びつけることにより、漁業の振興、観光資源の活用による地域の活性化を目的としている。

整備の概要

事業名：小泊地区広域漁港整備事業

事業期間：平成6年度～平成15年度

道路名称：「ライオン海道」の名称は、平成13年に小泊村民の公募で、この道路が奇岩景勝のライオン岩を通過することから決定。

延長：L = 1,935m

道路規格：第3種第4級
(W = 10.0m)

主要構造物：1号橋 L = 734m (3径間連続PC中空床版橋)

2号橋 L = 520.0m (PC単純箱桁 + 3径間連続PC箱桁 + 4径間連続PC箱桁)

道路護岸 L = 1,310.0m

桁下空間：H = 6.2m、漁船の航行を考慮し桁下高を決定。1号橋は漁場へのアクセスを可能とし、2号橋は漁場の喪失を防ぐため橋梁とした。

事業費：約80億円

事業の特徴

本事業の施工地区は、津軽国定公園第一種特別地域であることから、橋梁のデザインは自然環境に配



全景写真(2号橋・ライオン岩を望む)

慮しシンプルな橋脚と桁の連続性により周囲と一体感をもたせた。また、色彩は、自然風景により調和する色を採用した。特に、2号橋付近にハヤブサの営巣地があるため、橋梁照明は歩道高欄内に設置し環境に配慮している。

コスト削減の観点から、2号橋上部工について「外ケーブル工法」を採用し、上部工死荷重の低減、施工の省力化、維持管理の簡素化が期待でき、約110万円のコスト削減することができた。

事業の実施に当たり、県や地元漁協などからなる「小泊漁港(下前・折戸)臨港道路建設協議会」を設立し、円滑な事業推進に努めるとともに、道路や橋梁の名称、橋梁親柱のデザインの決定などには地元住民に参加してもらい、事業に対する地元意見を優先した。事業の効果

本事業の実施により、漁獲物の出荷量の増大、大型車両が使用可能となることによる輸送費の軽減を図ることができ、また、地滑り地帯を通る現道に対する代替道路を確保したことにより、防災対策の向上と地域住民の基幹道路としての利便性が向上し、地域住民からも完成が喜ばれている。さらに、津軽国定公園の中で景勝地として有名な権現崎へのアクセスが向上したことにより、今まで以上の観光振興も期待されている。

賛助会員 オリエンタル建設(株)、川田建設(株)、東洋建設(株)、(株)ピーエス三菱



ライオンをモチーフにした橋梁親柱